

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1	学校教育目標	「至誠明朗」の校訓を体し、知・徳・体の調和のとれた創造的・人間性豊かな実践力のある地域社会人の育成を図る。	
2	評価する領域・分野	生徒指導部	
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・アンケートより、「学校はいじめや差別を許さず、厳しく対応している」の項目において、ポイントが低い。	
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1)生命を尊重する心、道徳心を持った豊かな人間性、人としての基本的な倫理観や規範意識の育成 (2)部活動の推進 (3)関係機関や地域と連携した生徒指導の推進	
5	重点目標を達成するための校内組織体制	生徒指導部会、特別生徒指導委員会、学年会、教科担任会議、サポート会議、いじめ防止等対策委員会、人権委員会	
6	目標達成のための具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
	(1)「いじめ防止等対策委員会」の内容の充実。あらゆる教育活動の場面で、「いじめは絶対許さない」姿勢を生徒に訴えかける。いじめアンケートの結果等を基に、解決に向けて、積極的に生徒に関わる。 (2)部活動を通じ基本的生活習慣や挨拶活動を徹底させ、帰属意識を持たせることで自己有用感を持たせる。 (3)PTAと協力し朝の交通安全指導や挨拶活動を実施する。	(1)いじめ防止等対策基本方針 いじめ防止等対策年間計画 いじめ防止等対策教員研修会 いじめ防止等啓発活動 (授業、HR活動、行事、部活動、集会等) (2)部活動実績、部活動による清掃活動・挨拶運動 (3)交通事故発生件数、MSL報告書 美濃地区「高校生による交通安全推進大会」の企画・運営	
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
	(1)いじめ防止等対策委員会、いじめ防止等教員研修、生活委員会 (2)部活動リーダー研修会、部顧問会議 (3)生徒指導講話、交通安全講話、啓発活動	(1)充実した内容となり、教員の意識も高まってきたか。 (2)部活動の実績も上がり、帰属意識も増してきたか。部単位での善行が増えてきたか。 (3)PTAとの協力体制が整いつつあるか。	A B (C) D A (B) C D A B (C) D
11	成果・課題	総合評価	
	○年間3回実施されるいじめアンケートでは、「現在も続いている」の回答がほぼ見られなかった。来年度以降も「いじめは絶対許さない」ことを訴え、学校の姿勢を示し、根絶を目指したい。 ●コロナ禍において、例年とは違うスタートであったため、新入生指導の難しさを感じた。生徒会、各科、部活動などで連携して指導を行いたい。 ●コロナ禍において、生徒指導関連の行事は中止となった。そのような中で交通事故については、自損の案件が多く見られたため、さらなる啓発を行いたい。 ○今年度も、長期欠席する生徒に対する指導について、HR担任、教育相談、部活動顧問等の関係職員で情報共有するなど、連携して指導することができた。	A (B) C D	
12	来年度に向けての改善方策案 ・校則の見直しについて、生徒会と共に検討を進めていきたい。 ・「いじめ防止」、「情報モラルの徹底」、「交通事故の減少」などの今年度の課題解決に向けて、起こさないための事前の予防的な指導を行う。さらには、生徒の良さを日常の活動から発見・自覚させ引き伸ばしていく開発的指導を心がけたい。 ・教育相談、いじめ対策について、保護者に理解してもらえる工夫を更に行う。 ・発達障害やそれと疑われる生徒に対しての理解と保護者と連携し、個に応じた配慮を全職員が共通理解し指導にあたる。 ・体育祭、文化祭などの生徒会行事の内容、取り組みなど、さらなる充実を目指したい。 ・コロナ禍における新入生指導の在り方について、生徒会、各科、部活動などで連携して指導を行いたい。		

II 学校関係者評価

実施年月日 令和3年1月25日

【意見・要望・評価など】 ・いじめの根絶は難しいが、早期発見、拡大に努めて欲しい。保護者アンケートからいじめの対応についての評価が低いことが指摘された。生徒指導において、細部まで指導されていて素晴らしい。 ・日頃関わったことのないボランティア活動に参加して欲しい。
--